

# 四條畷市教育委員会ニュース

内容：

- ・すすむ世代交代とミドルリーダー
- ・授業研究会

## 「育つ！学校のミドルリーダー」

### 〇すすむ世代交代とミドルリーダー

教員の世代交代が進んでいる。

平成25年5月1日現在、本市公立小中学校に勤務する教諭の平均年齢は小学校36.7歳、中学校39.1歳。

大阪府内のいずれの市町村においてもこの数年来、小中学校教員の団塊世代の世代交代がはじまり、同時に若年層の教師が大量に採用されています。各学校においては若手教職員を育てようと、ベテラン教員による知恵と技の伝承が行われていますが、そこにミドルリーダーの存在があります。学校の自主性・自律性を発揮し特色ある学校づくりをめざして活躍している先生方がいます。そのようにリーダーシップを発揮する先生方を私たちは「ミドルリーダー」と呼びます。

### ミドルリーダーにみられる特長として

(参考：岡山県総合教育センター ミドルリーダーガイドブック)

#### 1 やりがいや楽しさを感じている

ミドルリーダーの先生方は、それぞれの分野でリーダーシップを発揮する中で、「やりがい」や「楽しさ」を感じています。苦しいことやつらいこともあると思いますが、それをやり遂げた時の児童生徒や同僚の笑顔を糧にやる気を出しているものです。この特長は、すべてのミドルリーダーに共通するものです。



写真は四條畷南小学校運動会（H25.6.1）より  
「みんなで気持ちをひとつに よっちょれ2013」

#### 2 組織として考えている

ミドルリーダーの先生方からは、「担任しているクラスの児童生徒だけでなく、学年全員の児童生徒を担当している気持ちでいます」「隣の若い先生の分掌に協力しています」という言葉が聞かれます。担任している児童生徒のことだけでなく、学年・学校全体のことを考えて行動しています。

#### 3 得意分野を持っている

ミドルリーダーの先生方は、何らかの得意分野を持っています。例えば、小学校の先生方は、基本的には全教科を教えますが、その中でも「特にこの教科の指導には自信がある」といったものです。また、中学校の先生方については、教科についての高い専門性を持っているのに加えて、生徒指導や安全教育、部活動などの領域においても得意分野を持っているといったものです。更に得意分野に磨きをかけるため多忙な中、研修会、講習会などに参加し自己研鑽に努めている人も少なくありません。



「こころ・わざ・からだいっぱい表現だ！」

#### 4 同僚性を大切にしている

ミドルリーダーの先生方は、「〇〇先生には、安心して相談できる」「困ったときにさりげなく声をかけてくれる」など、同僚の先生方から共通して聞かれた言葉です。当然のことながら、「ミドルリーダーの先生方への信頼はとても厚い」という印象を受けます。実力を多くの同僚から認められ、敬意を持たれてリーダー性を発揮し、自ら集団

をぐいぐい引っ張っていくリーダー像がある一方で、近年は、コミュニケーションを通して同僚のやる気を引き出しながら組織を後押しするリーダー像も注目されています。

### 5 家庭・地域と連携している

ミドルリーダーの先生方は、情報を収集するためのチャンネルを数多く持っています。管理職や同僚と相互のコミュニケーションはもちろんのこと、校外の研修会に参加したり、教員以外の社会人の方と交流したりして情報を得ている人もいます。特に共通しているのが、保護者や地域の方々の声に耳を傾けているということです。行事などで何かアクションを起こすときには、保護者や地域の方々のことを考えたり意向を聴いたりしています。さらに、情報収集にとどまらず、保護者に学級懇談会を主体的に運営してもらったり、地域の方々と一緒に行事を計画したりするなど、協力や参画を得ようとする視点も持ち合わせています。



「おやじの底力で学校見守るぞ！」

### 6 オールラウンドプレイヤーである

ミドルリーダーの先生方は、「〇〇先生は、今はこの分野で活躍しているけど、だいたい何をやっても期待通りの成果を上げますね」「〇〇先生は、授業や分掌などどれも熱心に取り組みます」という声が管理職や同僚の先生から聞かれます。授業の指導技術や担当業務の処理能力など教師としての基本的な資質能力を備え、オールラウンドプレイヤーとしてどの仕事もてきぱきと誠実にやり遂げる上に、得意分野も持っています。



「さあ、出番だよ！気持ちもとのえて！！」

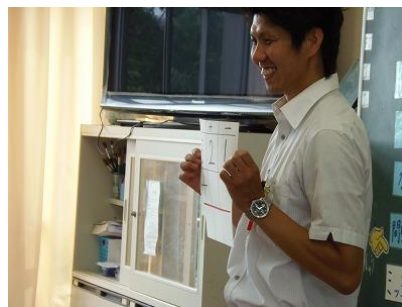


四條畷市の各学校で活躍するミドルリーダーたちも、同様の特長を持ち備えていることが言えます。よき先輩教職員として若い先生方をリードし、結果として更なるパワーアップにつながっています。

先日のある小学校で実施された4年目教師の研究授業では、子どもが発言しやすい教室を作り出し、子どものつぶやきを聞き逃さず授業に活かしている場面や、子どもの反応をよく観察し、それによって授業のもっていきようを柔軟に変えたり、次の学習展開を視覚的に予知させながら、授業に意欲的に参加させる仕掛けを取り入れた授業が行われました。子どもたち一人ひとりのニーズに対応しながら、「すべての子どもができる・分かる授業」を求める姿がありました。そこには、単に授業者のみが実践するだけでなく、ミドルリーダーや同僚の支えがあり、学校ぐるみで授業力を高め合おうとする学校文化が根付いています。



今日のねらい「ひっ算は くらいをそろえる。同じくらいどうし計算する。」



研究協議では、他校の参観者から授業者の発問、指示について意見が交わされました